



令和2年度

学校関係者評価報告書

学校法人諏訪学園
山形医療技術専門学校

学校法人諏訪学園山形医療技術専門学校の学校評価委員会は、平成 30 年度第 2 回自己評価に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、その結果を以下のとおり公表いたします。

1 学校関係者評価について

専修学校における学校評価は、平成 19 年の学校教育法及び同施行規則の改正により、学校関係者評価の実施・結果の公表に関する努力義務が課されています。また、職業実践専門課程に認定されている課程においては、学校関係者評価を必ず実施することとなっています。本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン」(文科省：平成 25 年 3 月)に基づき、**学校評価・学校関係者評価実施規程**を定め学校関係者評価を行なっています。

2 学校関係者評価の目的

関連業界、職能団体等関係者、卒業生、教育に知見を有する者などの学校関係者が、山形医療技術専門学校の学校評価結果を評価することで学校評価の客観性、透明性を高めるとともに、学校関係者から学校運営、教育活動の現状における課題について意見、要望を受け継続的な改善をはかること並びに特色ある学校づくりを目的としています。

3 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価をおこなうにあたり、本校の「自己評価報告書」を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」(文科省：平成 25 年 3 月)に則り実施することを基本方針とします。

4 学校関係者評価委員会委員

区分	氏名	役職/所属等	外部委員選任根拠	外部委員任期
委員長	梶原賢	校長	-	
委員	杉原敏道	教育部長	-	
委員	磯部佳宏	総務部長	-	
委員	武田貴好	教務課長	-	
委員	長沼誠	理学療法学科長	-	
委員	鈴木竜平	作業療法学科長	-	
外部委員	菊地和博	東北文教大学 特任教授	教育に知見を有する者	令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
外部委員	飯塚哲	サンワ機器 代表取締役	地域住民 会社経営者	令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
外部委員	高橋怜児	至誠堂総合病院 理学療法士	関係業界 卒業生	令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
外部委員	安食慶太	山形厚生病院 作業療法士	関係業界 卒業生	令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

5 学校関係者評価委員会実施日時

実施日時 令和3年5月24日(月) 15:00~16:30

場 所 山形医療技術専門学校 会議室

6 学校関係者評価方法

「令和2年度自己評価報告書」に基づき、基準項目の結果と今後の改善方策について以下のポイントに留意しながら評価をおこないました。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の改善方策は適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取組が適切かどうか
- (4) その他、学校運営に関する意見、要望等

7 学校関係者評価結果

評価については、◎適切である、○ほぼ適切である、△やや不適切である、×不適切である再検討が必要、の4段階の評価をおこなっている。

基準並びに項目に対する学校関係者の評価は、以下のとおりです。

基準並びに項目	評価者(1)	評価者(2)	評価者(3)	評価者(4)
基準1 教育理念・目的・人材育成像	◎	◎	◎	◎
基準2 学校運営	◎	◎	◎	◎
基準3 教育活動	◎	○	○	◎
基準4 学修成果	◎	◎	◎	◎
基準5 学生支援	◎	○	○	◎
基準6 教育環境	◎	◎	◎	◎
基準7 学生の受入れ募集	◎	◎	◎	◎
基準8 財務	◎	◎	◎	◎
基準9 法令等の遵守	◎	◎	◎	○
基準10 社会貢献・地域貢献	◎	◎	◎	◎

関係者評価委員会からの意見要望(委員会質疑応答)

教育理念・目標

今後の対策として、3つのポリシーをより具体的に理解してもらえるよう周知を図りたいとしているが、学生や保護者にとっては内容がやや難しい場合がある。その場合には、噛みくだいた表現やイラスト入りのパンフレットなどを作成しオープンキャンパスで配布するなどしてはどうか。

いただいたご意見を参考にし、より一層の理解が図られるように今後の広報活動に活かしていきたい。

学修成果

両学科揃っての国家試験合格率100%は素晴らしい結果で、日頃の指導の賜物と思われる。一方で留年・退学者の問題があり、その原因は把握されているようであるが、低減の為の具体的な対策を伺いたい。

基本的にはこれまでと同様に、学生の状況に応じて個別に手厚く指導を行っていきたいと考えている。これらに加え、昨年度からGPAによる成績評価を導入し、過去の留年や退学となってしまった学生の状況を分析している。学業不振の傾向にある学生にはこれまで以上に早期から個別指導などの対策を行い、問題が大きくなる前に対応していくよう考えている。

新型コロナウイルス感染症拡大による実習指導者会議中止に関して、代替えとしてオンライン形式での指導者と学生の顔合わせの方法を検討していただきたい。

今年度も感染症拡大防止のため実習指導者会議を中止せざるを得なかった。コロナ禍により実習施設の確保すら困難な状況であったが、承諾頂いた一部の実習施設の指導者とは実習前にオンラインで学生と面談していただいた。今後も実習への導入がスムーズになるように、オンライン形式での面談等を積極的に活用していきたいと考えている。

学生支援

体育館やグラウンドが完成したが、学校として課外活動への支援はあるのか伺いたい。

現在はコロナ禍のためサークル活動の開始などは控えているが、今後学生の要望があれば対応していきたいと考えている。

教育環境

新型コロナウイルス感染症拡大によって臨床実習の一部を学内演習に代替したとのことだが、例年と比較して就職後の卒業生に何らかの影響があれば伺いたい。

卒業生の就職先からは、与えられた知識を十分に使えていない印象があり、動画等を活用した学内演習だけでは限界があるように思えるとの意見も一部あった。しかしながら、臨床経験が不足していることを不安に思っているようだが、例年の 1 年目療法士と比較し大きな差は見受けられないという意見が大勢を占めた。

学生の受け入れ募集

コロナ禍により学生募集活動に苦勞されたことと思われるが、何か特別に実施された事などがあれば伺いたい。

運営組織を改編して新たに広報室を設置し、これまで行ってきた学生募集を強化した。さらに、ホームページをスマートフォン対応にしたり、広告媒体などの web を利用したりといった SNS を活用した情報発信に注力した。これらについては今後も引き続き強化して、学生募集に活かしていきたい。